

の演習プログラムの紹介とその評価

堀口逸子、筒井昭仁*、中村譲治、藤内修二**

(福岡予防歯科研究会、福岡歯科大学*、大分県佐伯保健所**)

はじめに：ヘルスプロモーションの様々な手法を実践するためには、理論だけでなく技術の習得が必要である。PRECEDE-PROCEED model はヘルスプロモーションの実践手法として Green らによって開発され、日本では一昨年訳本が出版され広く周知されるようになった。演者らはこのモデルを実践するための演習プログラムを開発し、昨年度全国約20ヶ所、約1000名を対象に演習を行った。今回はこの演習プログラムの概要を紹介しその評価を行ったので報告する。

演習プログラムの概要：PRECEDE-PROCEED model は住民のニーズを把握する社会診断から順次地域全体を包括的に診断していく PRECEDE 部分と、実施から3段階で評価をすすめていく PROCEED 部分から成っている。プログラムは最初にヘルスプロモーションの概要とモデルで応用されている健康教育理論とモデルの概略の説明を行い演習に進む。演習は1)モデル全体の構成を理解するためのカード演習2)乳歯う蝕をテーマに架空の町で PRECEDE 部分についてモデルを体験する構成になっている。2)では行動診断部分で保健行動の優先順位付けと目標値の設定を行い、次いで教育・組織診断部分で限定された保健行動について準備、実現、強化の3要因を検討する。最後に PROCEED 部分について講義形式で事例を示し、その後質疑応答を行う。

演習プログラムの評価：プログラムが完成した後、参加者を対象に質問紙による評価を行った。回収数は463(13ヶ所)票で、平均年齢38歳、30~40歳代が全体の70%であった。また、職種は保健婦61%、歯科関係者14%、栄養士11%、事務職5%、その他10%であった。質問紙は小山らの研修評価シートを参考に作成し、項目は研修目標に対する達成度、今後の業務へに利用可能性、研修主催者に対する評価の3領域12項目である。結果として、今後の業務への利用可能性で、今後及び将来活かせる内容を具体的に記述した者は全体の72%(331名)であった。その内容は、優先順位付けなどモデルの手法の一部分の応用、生活習慣病など事業対象となる分野での応用、事業評価、計画策定、健康教育のプランニング、企画立案などでの応用など様々であった。開発されたプログラムによって、様々な領域と場面での応用についての可能性が示唆され、今後ヘルスプロモーションの実践が広まっていくことが期待される。

FAX 092-741-8037 e-mail fspd@comel.or.jp